様式3

学 校 番 号 **７６**

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

〈評価基準〉　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

福岡県立福島高等学校（定時制課程）

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）			評 価（総 合）
学校運営方針	校訓「正大・剛毅・優美」を胸に、自己実現のために努力を重ねるとともに、身に付けた豊かな人間力で社会に貢献する高い志を持つ人を育てる。		A
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
[成果] ・新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、時期に応じた対応ができた。 ・広報活動の強化に取り組み、本校の特徴と魅力を発信し続けた結果、志願倍率が有意に改善した。 ・コロナ禍の制約の中で、学校行事の新しい形を模索した結果、生徒の創造性、協働性が高まった。 **[課題]** ・コロナ以前に戻るのではなく、これまでに培ったノウハウを生かしてポストコロナの学校経営に取り組むこと。	生徒と教師が「自ら考え、自ら判断する」機会の充実 **「福高新時代」開幕！**	実社会の様々な課題を踏まえながら、良質かつ本質的な問いかけを行い、生徒が「自分には何ができるか」と主体的に考える機会を充実させることにより、生徒の課題解決能力とチャレンジする心を育てる。	
	より組織的で充実した教育活動の実施	目指す生徒像に示した能力を育成すべく各分掌が連携し、卒業までを見通した組織的な教育活動を行う。それぞれの特徴を生かした授業に取り組み、授業で勝負する雰囲気を醸成する。「観点別評価」をより的確なものとする。個別最適化された授業や業務の効率化に向け、ICTの積極的な活用を推進する。	
	関係機関との連携強化と地域に開かれた学校づくり	これまでに作り上げてきた地域社会との連携をより強化させながら、生徒により広い世界を体験させるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。また、そのような取組をホームページやSNS等も活用しながら積極的に発信し、本校の魅力の周知を図る。	
	量から質への転換と安全で健康的な環境づくり	令和4年度から取り組んできた「スクラップ＆ビルド」に継続して取り組み、より大切なものに力を集中させる。地域とも連携しながら、感染症や災害など起こりうる危機を自分のこととして捉える識を醸成する。超過勤務の削減に取り組みながら、生徒と教師が心身ともに健康で安心して教育活動に取り組める環境づくりに努める。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教科指導	「わかる授業」を目指した授業の工夫・改善を行い、基礎学力を定着させるとともに、正しく生きるための英知を身に付けさせる。 **「正大」新時代！**	授業の在り方等について職員間で共通理解を図りながら、全職員で生徒の落ち着いた授業態度を徹底させる。	A	A	A	落ち着いた環境で授業が行われており、積極的に授業に臨む生徒が多くなってきた。情報交換を重ねながら全職員で取り組んでいることや、生徒の資質を多面的に評価する観点別評価が定着しつつあることの成果と思われる。 次年度は、授業における生徒用端末の活用を積極的に進め、個別最適な学びの実現に近づけたい。また、リモート授業や外国籍生徒に対する学習支援を更に進めたい。
		授業アンケートを実施し生徒の理解度やつまずきを把握するとともに、アンケート結果を分析し「わかる授業」を目指した授業改善に取組む。	A			
		欠席がちな生徒に対する学習支援や学習の遅れがちな生徒に対する補充指導等を行いながら、基礎・基本の定着を図る。	A			
	主体的に学ぶ態度の育成や、深い学びの実現に向けた実践に努め、自己実現のために努力する力を養う。 **「剛毅」新時代！**	評価項目等の工夫改善を行い、生徒の多様な資質能力を広く評価できる授業実践を通して、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る。	A	A		
		生徒用端末の活用を推進し、学習段階に応じたきめ細かい指導を行うことで、学習意欲と学力を高める。	B			
		生徒の希望や適性を把握し、早期から個に応じた適切な学習支援を行う。	A			
生徒指導	いじめを撲滅し、道徳教育の推進と規範意識の醸成を図り、問題行動の未然防止に努め、美しく生きる力を身に付けさせる。 **「優美」新時代！**	年5回の規範意識育成学習（いじめ防止・非行防止等）や道徳教育の推進により、問題行動の未然防止と規範意識の醸成を図る。	A	A	A	生徒指導規定を一部改正し、生徒主体でルールやマナーを守る指導に努めた。また、保護者や諸機関と連携を図り、学校外での行動について情報交換し、非行防止等に取り組んだ。 次年度も引き続き、生徒との面談や週１回の職員間による生徒情報交換会を実施し、生徒に関する情報の共有化と改善策を考え、対応し、生徒指導上の問題に早期に対応できる体制の充実に努めたい。また、年度初めは職員による給食後と放課後の巡回指導を実施し、生徒の動向に注意を払っていきたい。さらに、出席率の向上と遅刻・早退の減少を図るため、魅力ある学校の雰囲気づくりに努めたい。
		社会人としてのルールやマナーの指導、あいさつや言葉遣いの指導により、生徒の社会性を高め、美しく生きる力を身に付けさせる。	B			
		部活動の充実・生徒会活動の活性化を図ることで、行事等への積極的参加を促し、人間関係作りを推進し、自尊感情を育成する。	A			
		年１２回のアンケート（いじめ・学校生活）、年３回の家庭チェックリストを継続して実施し、早期発見・早期対応に努める。	A			
	魅力ある学校の雰囲気づくりの為、カウンセリングの充実を図り、心の悩みを知ることで、中途退学の防止に努め、強く生きる力を養う。 **「剛毅」新時代！**	授業時や諸活動において、生徒の状況を観察し、生徒間・教師間の望ましい関係を構築し、安全・安心な学習環境を作る。	A	A		
		家庭訪問や職場訪問において、学校外での生徒の状況を把握し、個に応じた支援を通じて、出席率の向上と遅刻・早退の減少を図る。	A			
		面談週間を学期に１回設定し、教育相談の充実を図るとともに、職員間での情報共有と共通理解を深め、強く生きる力を養う。	A			
	交通・防犯等に関する教育を推進し、正しく生きる態度を育成する。 **「正大」新時代！**	交通安全指導を徹底させ、自動車・二輪車・自転車通学者については、任意保険の加入を義務付け、正しく生きる態度を育成する。	A	A		
		関係機関と連携し、長期休業中の指導やネット犯罪などに関する指導を充実させ、事件事故防止を図り、正しく生きる態度を育成する。	A			
進路指導	学校教育全体を通じてキャリア教育を推進し、社会人として望ましい勤労観・職業観を育成する。 **「正大」新時代！**	上級学校紹介や社会人講話など、外部講師を招聘した進路指導講座の開催を推進し、勤労観・職業観を育成する。	A	A	A	ハローワーク等の外部機関と連携し、外部講師を招聘した進路講座を開催し、生徒の勤労観・職業観の育成を図り、早期に就職進学指導を全職員が協力して取り組むことができた。 今年度は、９月末に卒業予定者の進路を確定することができた。また、在校生の就労率８０％以上を９月に達成した。 次年度も、早期に希望進路実現が図られるよう、全生徒の進路に対する意識が高まるように指導したい。
		アルバイト等の就業経験を積ませ、就業条件等の内容を理解させ、就労することの大切さを学ばせることで、卒業時の就業のミスマッチを防ぐ。	A			
		挨拶・勤勉・節度・マナーなど、社会人として生きる力を身に付けさせる。	B			
	生徒の進路に対する意識を高めさせ、卒業予定者の就職、進学を実現させる。 **「剛毅」新時代！**	アンケート及び面談を通して、生徒の希望状況を把握し、関係機関と連携を深め、希望進路の実現を図る。	A	A		
		進路目標を早期に設定させ、進路実現に必要な学習指導を徹底する。	A			
		大学進学等を希望している生徒へは、模試等を紹介し、進学意識の高揚を図る。	A			
保健指導	安全・安心に学ぶことができる学校づくりを推進するとともに、健康に対する生徒の意識を高め、たくましい身体とさわやかな心を育てる。 **「優美」新時代！**	保健講座（性教育・AED講習会・がん教育等）を実施し、健康に対する意識の高揚を図る。また、学校医と連携し健康診断を実施する。	A	A	A	今年度は、がん教育講座を実施し、がんに対する正しい認識を得る貴重な機会となった。また、スクールカウンセラーと担任や養護教諭との連携も強化された。 次年度も保健講座と教育相談の充実に努めたい。
		「保健だより」「食育だより」を定期的に発行するとともに、保健委員の活動を通して健康増進への意識を高める。	A			
		スクールカウンセラー等による教育相談について教職員との連携を深めるとともに、生徒・保護者が気軽に相談しやすい環境を整備する。	A			
研修	全職員が生徒の現状ならびに課題の把握に努め、校内外の研修等を通して生徒理解の方法を身につける。また、図書室の利用を促し、読書を通した心の成長をはかる。 **「正大」「剛毅」「剛毅」新時代！**	授業改善や生徒理解、人権意識の向上につながる職員研修の充実を図り、豊かな人間性を身に付けた生徒の育成に役立てる。	A	A	A	今年度は、ICTに関する研修等、計画通りに研修ができた。次年度は、タブレットを用いた授業を行い、生徒が使えるような研修を計画したい。また図書だより、お勧め図書の案内等の紹介を通して、生徒の育成に役立つ情報発信を続けたい。
		職員の校外研修への参加を促すとともに、授業改善や生徒理解、人権意識の向上に役立つ教育情報の発信を定期的に行う。	B			
		「図書だより」の発行やお薦め図書の紹介等を通して、心豊かで、自他を思いやり、自立した生徒の育成につなげる。	A			
広報	生徒達の活動を保護者・地域・中学校へ情報を発信する。 **「優美」新時代！**	個人情報等に配慮しながら、生徒の活動状況等について学校ホームページへの掲載を定期的に更新し、最新の情報発信に努める。	A	A	A	今年度同様ホームページを週1回更新する等発信力の強化に努め、定時制通信の発信の仕方を工夫し、学校全体の活性化につなげたい。
		「定時制通信」等の情報を定期的に発信し、本校の活動や生徒の姿を伝えることで、保護者・地域・中学校との連携を深める。	A			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・教育活動の更なる質的充実を図るため、一人一台端末の活用による個に応じた指導や評価の改善を継続する。
・高い志を持ち社会に貢献できる人材を育成するため、外部連携を拡充し、仕事と学業の二刀流を継続し、社会とのつながりを深める教育を推進する。
・引き続き、生徒にとって安心安全の場となり、生徒の社会性を育む「共に学び、共に成長する」場になるような学校づくりを推進する。

学校関係者評価

評 価（総 合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・ICT教育の推進に力を入れ、個別最適な学びを深めていただきたい。 ・一人一人環境が違う中で個別の対応がなされており、素晴らしい。
A	・生徒保護者との良好な関係は安定した学校運営に非常に有効であり、引き続き取り組んでいただきたい。 ・人間関係づくりは特に大切であり、良く対応ができていると思う。
A	・早期に高い就職率を達成できたことを評価したい。 ・社会人としての生きる力の定着を更に努めていただきたい。 ・3年で早期卒業できる生徒もいて素晴らしい。
A	引き続き、SCとの連携を図り、悩み等を抱える生徒に寄り添う支援をお願いしたい。
A	・引き続き人権意識の向上に取り組んでいただきたい。 ・ICTは必須の時代なので課題達成をできると良いと思う。
A	生徒のモチベーションアップにつながる楽しい内容になっている。

評価項目以外のものに関する意見

多くの生徒が学校を居場所だと捉え、充実した学校生活を送っていることが伝わった。